

『紡ぐ』

発行 教育相談室「あした塾」 発行責任者 滝井元之
連絡先 927-0014 石川県鳳珠郡穴水町梶りの197
☎・📠 0768-56-1152 (自宅☎ 0768-56-1151)

「待ち」の文化



(2023年1月1日 穴水町の中尾湾)

「しんぶん『紡ぐ』」は2020年4月に第1号が発行されています。人口減、過疎化、高齢化が進む現状を受け止め、どうすることが穴水町を元気にし、現状を打開することになるのかをみんな考えておろかという思いで、「一石」でした。

その第1号の記事の1つを再掲しますので、あらかじめ穴水町のことを考えておいてください。

「ボラ待ちやぐら、も「イサガ漁り」も穴水町を代表する風物詩でもあり、時間やゆっくり流れる水のように能登の風土を表している風景です。「我慢強さ」や「心の豊かさ」を象徴していると言えすす。「流石にまかせろ消極的な生き方」とも言えすす。毎日の営みを考えるとき「待ち」のままだいいのか... ということを強く感じることで必要だと思います。(T)

投稿

穴水町梶 室木正武さん



(雪の風景もい
いけど...)

いよの世は教よりも質
統合を免れ母校朝日に輝く
あおによし国内屈指の環境の
小学校を誇りとすべし

無知は罪

「無知は罪」とい
言葉があります。

知りなかつた、知らずかしらなかつたことで、重大な事態に陥つたこと、とても多くあります。今、日本の中で起きている(行われようとしている)1つ1つを「点」として見ていると、気味がない。でも、それを「線」で結んでみると、とんでもないことに気味つくはず。教育、文化、経済、政治、国際情勢等々、みんなからんで、知らない間に(知らされていないまま)何か起きてきているのです。

無関心も罪、そして沈黙も罪です。
「戦後」は終わり、「戦前」は始まっている。

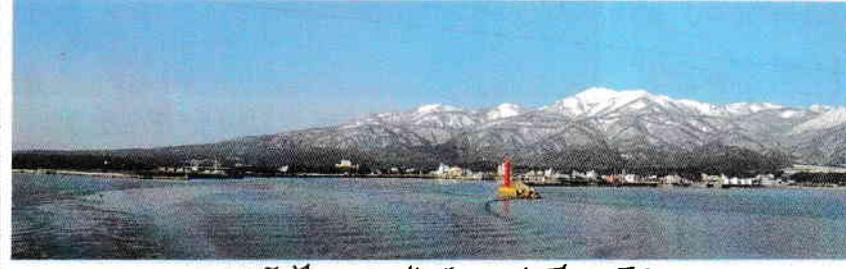
のこの空に トキよ来れ

能登トキクラブ 佐渡訪問



交流会資料にあった「トキと共生する佐渡の里山」農業は文化の言葉が印象的でした。(T)

「能登トキクラブ」は、1月11日から13日までの3日間、新潟県佐渡市を訪問しました。「佐渡トキクラブ」との交流、野生化トキの実態観察、トキ展示資料館・トキ保護センター及び各施設を見学するなどを通じて「能登トキクラブ」のレベル向上を目指すこと、先進活動や学び今後の活動に充実させていくことが主目的でした。



(佐渡島・両津港の風景です。)

穴水町で捕獲された本州最後のトキ「能理ちゃん」は佐渡で死に、日本最後のトキ「キン」も佐渡で死に、日本の自然界からトキは絶滅しました。

1999年に中国から譲り渡

けたトキのペアで繁殖に成功し、2022年秋、佐渡では野生下のトキが569羽まで回復しているとのことでした。

現地交流会では

佐渡訪問はやはり密着スケジュールでした。佐渡市農林水産部の中川克典副部長他職員の方々、NPO法人トキと共生応援団、各施設職員の方々の熱心で丁寧な対応をいただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。訪問で学んだことをしっかりと生かしていくことが大事になります。



2日間にわたり、佐渡市の関係者と熱心な意見交換が成行されました。



現地観察では15羽、6羽と総び行くトキを見ることができました。



参加者は
新源 部長他、
寺村 扶佐司、新田
耕司、滝井元之各
理事、そして、牛岩政
樹 師匠、画課課長
補佐の5名。



(佐渡トキ保護センターのトキのついで)

「テレビ金沢」が2日間密着取材でした。